

新刊図書整理業務の外注化プラン

総合目録データベース研修

グループ討議報告

2002. 10. 31

東京大学附属図書館 小山憲司

九州大学附属図書館 秋月滋

一橋大学附属図書館 豊田裕昭

内容

1. 各大学図書館を取り巻く
 図書整理業務上の問題点と原因
2. グループ討議テーマ
3. 問題点を解決するための1つの提案
4. 新刊図書納入システムとは
5. 新刊図書納入システム導入のメリットとデメリット
6. 遡及入力体制の評価：従来の体制
7. 遡及入力体制の評価：今回のプラン
8. 新刊書納入システム導入の効果（まとめ）
 提言

1. 各大学図書館を取り巻く 図書整理業務上の問題点

- 進まない遡及入力
- 人員不足
- 慢性的な滞架図書の山

問題点の原因

- 進まない遡及入力の原因

- ・ 予算不足 → 単発的な予算では解決しない

- 人員不足の原因

- ・ 人員削減 → 増えることは期待できない

- 慢性的な滞架図書の山の原因

- ・ ルーチンワーク外業務の増加
- ・ 整理業務の多様化

→ 減ることは期待できない 4

2. グループ討議テーマ

- 予算的背景を期待せず
- 現人員体制で
- 業務を増やさず
- 目録作成のスキルを失うことなく



問題点を解決するための提案を行う

3. 問題点を解決するための1つの提案

TRC社等 図書取り次ぎ業者による
「新刊図書納入システム」の導入



これを検証する

4. 新刊図書納入システムとは

TRC社 図書納入システム

新刊和図書を同社から割引なしに、
定価にて購入することにより、
発注・受入・整理・装備・納品まで
標準で行うシステム

5. 新刊図書納入システム導入のメリット

- 新たなる予算の確保は不要である！
- 新刊和図書に関わる発注・受入・整理・装備・納品業務が軽減できる！
 - 重複チェックが不要
 - タトルテープ、ラベル等の装備
 - フィルマーによる図書全面コート

5. 新刊図書納入システム導入のデメリット

- 購入冊数が減る
- 地元書店の切り捨てが行われる
- 自館蔵書構成のイメージが希薄になる

6. 検証

導入は是か非か！

6. 遡及入力の評価：従来の体制

遡及入力は外注化、新刊図書は図書館員

利点

- 単発予算のため、予算計画を立てやすい
- 対象冊数が明確である

6. 遡及入力の評価：従来の体制

遡及入力は外注化、新刊図書は図書館員

欠点

- 遡及入力はヒット率が低い

 - 流用入力、オリジナル入力が多い

 - 流用入力、オリジナル入力には、データ検収が伴う

 - 流用入力、オリジナル入力は、契約単価が高い

- 書誌の同定や疑問点にレコード調整が伴う

- 業者のスキルに問題がある場合もある

7. 今回のプラン

新刊図書は外注化、遡及入力は図書館員

- 新刊図書はヒット率が高い

 - 流用入力、オリジナル入力は、TRCマークにより行われ、信頼性が高い

 - データ検収の必要性が薄くなる

 - 目録作成の高度なスキルを必要としない

- 入力コストは、図書購入費に含まれる

- レコード調整は最小限となる

8. 新刊書納入システム導入の効果 (まとめ)

- 継続的にそれまで新刊和図書整理にかけていた**時間と労力**が不要になる



遡及業務の促進
滞架図書の早期解消
サービス業務の充実等

提言

新刊図書納入システムを導入すれば、

- 予算的背景を期待せず
- 現人員体制で
- 業務を増やさず
- 目録作成のスキルを失うことなく



さまざまな問題点を解決できる！

付. もしこのプランが採用されなかった場合

新刊図書→外注化
遡及入力→図書館員

検証結果に見られるような多くのメリットを享受することができる

おわり